

## 主が御顔をあなたに照らし

2009年3月1日 アシェル・イントレーター

新約聖書に2箇所、イエシュア(イエス)の御顔が太陽のように輝く場面があります。最初は主の変節の山です。**マタイ 17:2「(前略)御顔は太陽のように輝き(後略)」**

イエシュアは神の御国はどのようなものかを、その一部を弟子たちに味わわせました。主が祈られると(ルカ 9:27-29)主の御顔は輝き始めました。主はご自分の意思で、ご自分を通して栄光を強く輝かせ、また弱くすることができるのです。私たちの復活の体は同じように機能します(ピリピ 3:21)。

2箇所目はヨハネに対する啓示です。**黙示録 1:16「顔は強く照り輝く太陽のようであった。」**主の御使いが栄光をもって族長たちの前に現れたように、イエシュアはヨハネにご自身を現されました。(ダニエル 10:5、7:13、エゼキエル 1:26、出エジプト記 24:11 など)

しかし人は神の栄光の御顔を見て、生き続けることはできません。モーセが神に語った時、彼と神の間には覆い隠す雲がありました。彼は神に主の御顔を見るため雲を取りのけて欲しいと懇願しましたが、主はそれを拒絶しました。主が最大限に許したのは、主のうしろを見せることでした。(出エジプト 33:12-23)

注:出エジプト 33:14-15 のほとんどの英訳では、モーセは神の「臨在」が一緒に行って欲しいと願っています。(日本語新改訳は「わたし自身が一緒に行って」)しかし、ヘブライ語では「臨在」ではなく「御顔」です。彼は、主の「臨在」(あるいは日本語訳の「ご自身」)はすでにモーセと共にあったので、神の「臨在」(あるいは「わたし自身」)が一緒に行って欲しかったのではなく、彼は神の御顔の栄光を見たいと願ったのです。

私たちの罪によって、主の御顔は私たちから隠されています(イザヤ 59:2)。最初の罪が生じる前のエデンでは、アダムとイブは直接神の御顔を見ていました。彼らは主の栄光に非常に魅了されていたため、自分たちが裸であることに気が付きませんでした。パラダイスにおいて、私たちはまた神の御顔を直接見るようになります。

栄光の力は私たちの現在の罪深い状態のままではあまりにも危険であるため、イエシュアはご自分の栄光を退けて、普通の人々の体を持って地上に生まれました。(ピリピ 2:6-8)旧約聖書において、主はまた族長たちと話したいと思われた時、普通の人々の形をとって現れました。(創世記 18:2、32:24、ヨシュア 5:13、士師記 13:21 など)

注：イエシュアがダマスカスへの路上でサウロに栄光をまとって現れた時、憐れみ深くサウロの目に、彼の目が「溶けて」しまわないように保護する鱗のようなもの（最初のコンタクトレンズ？）を目に取り付けられました。（使徒 9:18）

モーセは直接神の御顔の栄光を見ませんでした。栄光の臨在の中で十分な時間を過ごしたため、彼の顔が光を放ち始めたのです。栄光は外から、彼の皮膚に吸収されましたが、それは一時的なものでした。しかし、その一時的な栄光は非常に恐れを生んだため、人々が彼から逃げ出さないために、彼は自分の顔に覆いをしなければなりません。（出エジプト 34:35）

モーセが直接神の御顔の栄光を見ず、モーセの顔の栄光は外側だけで一時的なものであったならば、もし栄光が十分であり、内側から放ち、永遠に続くものであるならば、それはどれほど大いなるものなのでしょうか。

**Ⅱ コリント 3:11「もし消え去るべきものにも栄光があったのなら、永続するものには、なおさら栄光があるはずです。」**

シナイ山でのモーセの顔の物語には、復活時により大きな栄光が私たち（とモーセ）を待っているという約束が含まれています。今日主に黙想するならば、目に見えない霊的な力である将来の栄光が私たちの心に入って来ることができるのです。

**Ⅱ コリント 3:18「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。（後略）」**

主の御顔を私たちは見るのです。物理的な目ではなく、心の目で見るとのことです。（エペソ 1:18）信仰によって主の栄光を見るならば、私たちは少しずつ、徐々に段階を踏んで主ご自身と同じ姿へと変えられるのです。そして、その栄光はどこにあるのでしょうか。それは、イエシュアの輝く御顔にあります。

**Ⅱ コリント 4:6「（前略）キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。」**

私たちはモーセのようですが、逆の方向です。私たちの体は変化しませんが、栄光が心の中に蓄えられます。皆さんの内側にあるものが、復活の時外側に現れるのです。（Ⅰ コリント 15:41-42 参照）ステパノが殉教した時、内側の栄光が彼の顔を通して御使いのように輝きました。

直接神の栄光ある御顔を見ることは、何という大いなる祝福なのでしょうか。（そして、主の御顔が私たちから隠されるということは、何という大いなる罰なのでしょうか。）神の栄光が私たちの心に移されていくことは、どれほど大いなる祝福なのでしょうか。これがアロンの祝祷の奥義なのです。

**民数記 6:24-26**

**「主があなたを祝福し、あなたを守られますように。**

**主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。**

**主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。」**

これこそが、大祭司の祝祷なのです。初期の大祭司は、シンボルとしての大いなる大祭司メシアの描写です。アロンの顔が輝いて皆さんに向けられてもあまり効果はありません。しかし、イエシュアの御顔にある神の栄光は神からの計り知れない恵み、親密さ、そして力の「ダウンロード」なのです。

これが、エルサレムにある私たちのコングリゲーションで毎週アロンの祝祷を用いて祝福する理由です。主の御顔があなた方を照らしますように！

**イスラエルの連立政権の最新情報(3月1日時点)**

この時点でリブニ氏(カディマ党)は、ネタニヤフ氏(リクード党)とリーバーマン氏(イスラエル我が家党)が要請している統一政府の形成に対し拒絶しました。これによって連立政権は不安定となり超正統派の政党から操作されるという危機にさらされます。どうか、この統一政府に関する最後の交渉の間、ネタニヤフ氏に知恵が与えられること、そして正統派の政党からの抑圧と腐敗を防がれるために神のご意思がなされることを緊急にお祈り下さい。